一般社団法人　日本老年学的評価研究機構
三周年記念シンポジウム

オンライン開催

― 健康危機へのレジリエンスと危機をチャンスに ―
新型コロナウイルス感染症や自然災害

度重なる自然災害や COVID-19、経済不況など、危機が頻発している。これらの危機に共通することは、災害による直接的なケガや死亡、新型コロナウイルス感染症による感染といった直接的な健康影響だけでなく、避難生活や社会的孤立、失業や経済状況の悪化など様々な「健康の社会的決定要因」が複雑に私たちに影響しているという事実である。危機からの回復にも、ソーシャル・キャピタルなどの社会的決定要因を考慮することが欠かせない。

これまで、日本老年学的評価研究（JAGES）では自治体と協力して高齢者の健康に影響を与える社会的決定要因を明らかにするとともに、「岩沼プロジェクト」などを通じて災害時の「健康の社会的決定要因」を明らかにしてきた。また、世界保健機関（WHO）神戸センター（WKC）では、国連世界防災会議と仙台防災枠組（2015 年）、WHO の災害・健康危機管理枠組（2019 年）、それらを実践するための科学的エビデンスの醸成に向けてグローバルな研究連携プラットフォームの構築など、災害領域における貢献を行なってきている。

World Health Day 2021 では、テーマの一つに健康格差があげられているが、健康格差の最大の原因は健康の社会的決定要因である。本シンポジウムでは、これまで JAGES や WKC が果たしてきた役割を踏まえ、高齢者における健康の社会的決定要因を考慮し、危機の時代に、だれ一人取り残さずに健康な社会をいかに達成するかを、昨今のエビデンスをもとに検討する。

日　時

2021年 5月14日(金)

15：00～17：00

場　所

オンライン（Zoom でのウェビナー形式）

後　援

国土交通省
内閣府政策統括官（防災担当）
国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）
（五十音順）

時　間	演　者	タイトル
15：00 ～ 15：05	近藤　克則（JAGES 機構・代表理事，千葉大学・教授）	開会のあいさつ
15：05 ～ 15：15	Ichiro Kawachi（ハーバード大学・教授）	ビデオメッセージ
15：15 ～ 15：27	引地　博之（北里大学・講師）	東日本大震災被災地における レジリエンスとソーシャルキャピタル
15：27 ～ 15：39	近藤　尚己（JAGES 機構・理事，京都大学・教授）	熊本地震からの学び
15：39 ～ 15：51	佐藤　豪竜（京都大学・助教）	新型コロナウィルス感染症が 高齢者の生活・健康に与えた影響
15：51 ～ 16：03	菖蒲川　由郷（新潟大学・特任教授）	ミャンマーにおける SDH と日本の災害時における 知見のミャンマーへの応用について
16：03 ～ 16：15	ローゼンバーグ　恵美（WHO 神戸センター・技官）	災害・健康危機管理 (Health EDRM) への WHO の取り組み
16：15 ～ 16：27	永松　伸吾（関西大学・教授，防災科学技術研究所・部門長）	指定発言：防災と EBPM （Evidence-Based Policy Making：科学的根拠に基づく政策立案）
16：27 ～ 16：57		パネル　健康危機へのレジリエンスと新時代への脱皮 ―感染症・自然災害を例に―
16：57 ～ 17：00	尾島　俊之（JAGES 機構・理事，浜松医科大学・教授）	閉会のあいさつ